

平成30年7月27日
愛 媛 大 学

「平成30年7月豪雨」への愛媛大学の対応について

1. 本学の取組体制

《愛媛大学危機対策本部の設置》

- ・設 置：7月9日（月）
- ・本 部 長：大橋裕一学長
- ・これまでの本部会議開催：計7回

2. 本学の被災状況

《人的被害》

○教職員

全教職員の無事を確認。
自宅の床上浸水：4名

○学生

全学生本人の無事を確認。
実家等の被害：82名（雨漏り自宅全壊など様々）

《物的被害》

- 農学部附属農場：法面崩落
- 附属高校：果樹園傾斜崩落
- 附属図書館農学部分館床上浸水

3. 災害調査団の結成及び各調査チームの活動

(1) 災害調査団の結成

- ・設 置：7月9日（月）
- ・団 長：大橋裕一学長・事務局長：森脇 亮防災情報研究センター長
- ・団 員：本学教員54名（7月26日（火）現在）
- ・目 的：主に愛媛県内の災害を対象にした調査
- ・調査項目：気象状況、洪水被害・浸水被害、土砂災害等
- ・報 告：調査結果は「報告書」にして、定期的に公開

(2) 各調査チームの活動

- ①東アジア古代鉄文化研究センター及び社会共創学部の教員が、7月19日（木）に、大洲市教育委員会、大洲市立博物館及び大洲市埋蔵文化センターと連携し、大洲城遺物整理事務所の被災状況を現地で調査。
- ②国際連携推進機構では、宇和島市・愛南町地域の在住外国人に今回の豪雨時の情報収集方法・対応方法等について、アンケート調査・聞き取り調査を実施予定。
- ③沿岸環境科学研究センターでは、災害資料の救出・保全を行う団体「愛媛資料ネット」を通じて、宇和島市吉田町立間公民館所蔵の旧立間村役場文書約100箱の保管場所として、本センターの附属施設である生物環境試料バンク（es-BANK）の冷凍室（-25℃）の一部を提供（8月6日（月）搬入予定）。
- ④法文学部日本史研究室が、歴史資料の被災状況調査と救出活動を県内外の博物館関係者などと協力して実施。

4. 被災市町への直接的支援

(1) 医療支援

- ①附属病院が、災害直後にDMAT隊を派遣し、各避難所のアセスメントや災害対策本部等の業務支援を実施。
 - ・活動期間：7月7日（土）～15日（日）
 - ・活動人数（延べ）：計42名（4チーム）
（医師14名，看護師13名，業務調整員15名）
 - ・派遣先：県立中央病院，大洲保健センター，愛媛県庁，八幡浜保健所
 - ・主な活動内容：各避難所のアセスメントの実施，DMAT調整本部業務支援
- ②愛媛県からの要請により，西予市立西予市民病院に救急外来の応援として，医療スタッフ（医師1名，看護師3名）を派遣。
- ③公益社団法人愛媛県看護協会からの要請により，災害支援看護師を各被災病院（宇和島市立吉田病院3名，西予市立野村病院1名）に医療スタッフを派遣（7月20日（金）現在）。
- ④一般社団法人愛媛県社会福祉会からの要請により，ソーシャルワーク・アセスメントを基盤とした生活再建支援のため，西予市に社会福祉士3名を派遣予定（7月25日（水）～9月30日（日）のうち，数日）。

5. 学生，教職員によるボランティア活動

《学生》681名（延べ）参加（7月9日（月）～7月27日（金））

《教職員》約144名（延べ）参加（7月12日（木）～7月27日（金））

《活動内容》

- ①各学部及び被災市町と関係が強い教員・学生による活動（緊急時を中心とした活動）
- ②全学体制（総務部総務課）による教職員，学生による活動（中期的活動）

(1) 教育活動も含めたボランティア活動の展開

- ①社会共創学部学生が，7月14日（土）～16日（月）に西予市野村地域において，西予市地域づくり組織のメンバーと協働で現地調査，児童・生徒のケア等の活動を実施。
- ②法文学部学生，社会共創学部学生，法文学研究科学生が，7月19日（木）に大洲市で，豪雨災害で水没被災した文化財（大洲城遺物）を救済するための技術指導を指導教員から学び，支援活動を実施。

(2) 教職員，学生によるボランティア活動への支援

- ①被災市町でボランティア活動を行う学生，教職員に対して，軍手，ゴム手袋，マスク，飲料水の支給
- ②バスの借り上げ費用の負担

(3) ボランティア参加学生への措置

- ① 災害ボランティア参加ガイドランスの作成
ボランティア参加者の事前教育用に「災害ボランティア参加ガイドランス」を作成し，利用した。
- ② 災害ボランティア参加による授業欠席の取り扱い
 - ・ 正当な理由のある欠席と認めた上，欠席回数の上限についても特例的な取扱いを定め，ボランティアに参加しやすい環境を整備。
 - ・ 実家等が被災した学生が，その復旧作業のため帰省する場合の授業欠席について，災害ボランティアに準じて弾力的な取扱いとすることを決定。

6. ボランティア・サポートセンターの設置

学生ボランティアの体制を構築するため，大学公認のチュードレント・キャンパス・ボランティア（SCV）が，災害ボランティアの参加を呼びかけ，情報提供，参加者の取りまとめなどを行うボランティア・サポートセンターを7月25日（水）に設置。

7. 支援物資の提供

- ① 7月13日（金）大洲市に支援物資を提供。
（ウェットティッシュ、マスク、ゴム手袋、弾性ストッキング、飲料水等）
- ② 7月23日（月）市長が来学された西予市に支援物資を提供。
（弾性ストッキング（エコノミークラス症候群防止））

8. 被災学生への経済的支援

(1) 授業料免除

- ・平成30年度前期授業料特別免除（納付済の授業料を返還）
- ・平成30年度後期授業料免除

(2) 奨学金制度

- ① 《給付奨学金》
 - ・愛媛大学修学サポート奨学金
- ② 《貸与奨学金》
 - ・日本学生支援機構奨学金緊急採用（第一種・無利子）
 - ・日本学生支援機構奨学金応急採用（第二種・有利子）

(3) 検定料の免除等・入学料免除

- ①被災した進学希望の方々の経済的負担を軽減し、進学機会の確保を図るために、平成30年度に実施する入学試験の検定料免除・返還の特例措置、並びに入学料免除を実施。

9. 義援金の募集

- (1) 全学教職員，附属5校園の教職員及び児童，愛媛大学校友会

10. 広報活動

- (1) 本学ホームページ上への特設サイトの開設

本学ホームページに特設サイトを開設し、本学の取組、災害調査団の活動、ボランティア活動、被災した学生への支援（奨学金制度、授業料免除制度）などの情報を随時発信。

11. その他

- (1) 検証委員会への参画

鈴木幸一名誉教授及び森脇亮防災情報研究センター長が「野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場（国土交通省四国地方整備局）」の委員（学識者）として参画。